

「アラブの春」から10年以上を経て、今改めて、その実態や諸成果そして人々の営為を、  
時間的・空間的に把握する試み。

# 「アラブの春」の アクチュアリティ

エジプト一月二十五日革命を中心にみる  
グローバル化下の日常的抵抗

大稔哲也 編(早稲田大学教授)

自由, 尊厳, 正義, 民主主義, 非暴力, 笑い……  
そのとき、人々は何を求めて立ち上がったのだろうか?  
そして、今も何を求めつづけているのだろうか?



「エジプト1月25日革命」を中心に、  
時間軸・空間軸をこえて「アラブの春」における数多の声を再生する。

## 目次

序言		
総論	ストリートを生きるグローバルな身体 — 「エジプト1月25日革命」を中心にみた「アラブの春」の歴史人類学	大稔哲也
<b>第I部</b>	<b>歴史のなかの「アラブの春」</b>	
第1章	エジプトと民主主義 — 議会・憲法・革命の歴史から	池田美佐子
第2章	群衆の力、組織の力 — 2011年3月の憲法改正とは何だったのか	竹村和朗
第3章	「国家のイデオロギー装置」の揺らぎ? — 政治変動と新旧メディアの役割検証	千葉悠志
コラム①	「アラブの春」は革命なのか? — フランス革命史からの問い	早川理穂
コラム②	革命大陸ラテンアメリカからみた「アラブの春」	内藤順子
<b>第II部</b>	<b>もつれあう革命のアクターたち</b>	
第4章	「4月6日運動」の貢献と限界	萩原優
第5章	1月25日革命以降のイスラーム諸勢力の競合と言説 — 信仰と権力をめぐって	黒田彩加
第6章	「1月25日革命」とコプト正教会 — 民主化とマイノリティ問題の不協和音	三代川寛子
第7章	革命と女性 — エジプト2011年革命の最初の1年間をふりかえる	後藤絵美
<b>第III部</b>	<b>日常性と身体からみた「アラブの春」 — 「アラブの春」のフィールドへ</b>	
第8章	家族関係から考える、広義の「1月25日革命」	鳥山純子
第9章	「エジプト1月25日革命」における自警互助組織の創発的形成	大稔哲也
コラム③	映画にうつる革命の息吹 — 「エジプトの二人の娘」より	後藤絵美
コラム④	詩が刻んだエジプト革命	師岡カーマ・エルサムニー
コラム⑤	「アラブの春」の音楽	大稔哲也
コラム⑥	続・「アラブの春」の音楽	大稔哲也
<b>第IV部</b>	<b>空間的比較のなかの「アラブの春」</b>	
第10章	「チェルノブイリ革命」と空間的比較考察の試み	鷹木恵子
第11章	抵抗の「源泉」から考える「シリアの春」	岡崎弘樹
第12章	抗議する民衆の行動主体と文化的営為 — イランとエジプトの比較から	山岸智子
コラム⑦	モロッコと「アラブの春」	齋藤剛
コラム⑧	忘れられた春 — イエメン	大坪玲子
コラム⑨	イエメンの「アラブの春」にて	馬場多聞
コラム⑩	混迷深まるリビアからみえるもの	上山一
おわりに		

7月21日(日) 新刊受注締切

ご注文数

冊

番線印

(ご担当名: )

A5判 上製 384頁 ISBN:978-4-634-67262-8 C3022  
定価 7,150円(本体 6,500円+税)

※新刊配本に間に合いますよう、お早めのご注文をお願いいたします。

